

# 中国語河南方言グッズにみる地域イメージとその特徴

日高知恵実（明治学院大学）

## 1. はじめに

方言グッズの研究は、日高貢一郎（1996）によって先鞭を付けられ、井上史雄ほか（2013）などで様々な観点が提出されたことによって確立した分野である。方言グッズの多くは、言語の専門家ではない人々の手によって、主に営利目的で作成されているため、方言記述という点では正確さに欠ける側面がある。しかしそこに反映されている内容を分析することで、当該方言についての様々な知見を得ることができる。

井上史雄ほか（2013）において海外の事例も紹介されているように、方言グッズは日本だけでなく中国にも存在する。日高知恵実（2023）では、中国における中国語方言グッズには地域的な偏在が見られ、中でも四川方言や河南方言のグッズの流通量が多いことを明らかにしている。そこで本発表では、このうち洛陽や開封などの河南方言グッズを対象とし、そこに反映されている地域イメージやその特徴について考察を進める。

## 2. 「悠久の歴史」をイメージさせる河南方言

### 2.1 「古都」と「方言」の親和性

河南方言グッズについて第一に挙げられる特徴は、河南が「悠久の歴史」を誇る中華文明の発祥地であるという言説を、河南方言と結びつけて提示しようとするあり方である。河南は中原に位置し、中国最古の王朝・殷に続き、東周から2000年にわたって都が置かれた洛陽、さらに北宋の都・開封を擁する。こうした古都のイメージは、方言が内包する「年配者が話す古めかしいもの」というイメージと親和性が高く、例えば、北宋の都・開封を描いた画卷『清明上河図』に開封方言を併記した方言絵はがきなどが流通している（図1）。「古都」と「方言」をセットで打ち出して社会的・経済的に活用する事例は、普遍的に見られる。東都・洛陽と対で知られ陝西省に位置する西都・西安においても、秦始皇帝陵の兵馬俑のキャラクターに西安方言を併記した絵はがきやマグネットなどが販売されている（図2）。また日本においても、1000年以上にわたって都が置かれた京都は、全国的に見て大阪と並んで方言グッズの数が突出している（井上史雄2007）。



図1 「漫画清明上河図」（開封方言絵はがき）



図2 西安方言絵はがきとマグネット

### 2.2 方言の保護・継承を提唱する方言グッズ

複数の河南方言トランプに共通して見受けられるのは、河南や河南方言の歴史的な位置づけと、方言を保護・継承していくことの重要性を説いている点である。一例として、「洛陽郭和我復興文化傳播有限公司」が出している洛陽方言トランプの札に記されていた文言を以下に挙げる。

【河南方言】古代中国語のルーツであり、南宋以前に通行していた全国の共通語。【洛陽方言】天下

に名を馳せる歴史と文化の古都・洛陽は、中国史上、最長かつ最多の王朝が存在した、政治・経済・文化の中心地である。洛陽方言は当時の共通語であり、地位や身分の象徴であり、また今日の河南方言のルーツでもある。<sup>1</sup>

さらにパッケージの記載からは、こうした商品の製作が「方言を救うための行動（抢救方言行动）」であり、「文化の復興や伝承（复兴文化 传承文化）」を目的としたものであることが読み取れる（図3）。中国では、2005年に国務院によって「我が国における無形文化遺産の保護プロジェクト強化に関する意見」<sup>2</sup>が提出されて以降、教育部および国家言語文字工作委员会によって、2008年に「中国言語資源音声データベースプロジェクト」<sup>3</sup>、2015年には「中国言語資源保護プロジェクト（以下「語保」）」<sup>4</sup>が進められてきた。曹志耘（2019：12）は、政府主導でおこなわれた「語保」が一般の人々の視界に入り、民間においても、方言やマイノリティ言語を保護しようとする動きが徐々に各地で現れるようになったと述べている。こうした風潮は、まさに方言グッズの作り手にも受け継がれていると言える<sup>5</sup>。



図3 洛陽方言トランプのパッケージ

### 2.3 「当時の」河南方言と現代の河南方言

しかし実際のところ、洛陽や開封に都が置かれていた「当時の」河南方言と現代の河南方言は、そのまま繋がるわけではない。魯冰（2018：147-148）は、河南における移民と方言の関わりについて、以下のように述べている。

中国史上、3回発生した大規模な移民の動きは、いずれも河南が関係している。1回目は西晋の永嘉の乱による大規模な移民で、民衆は河南から鄱陽湖流域や安徽南部・江蘇南部へ移り住み、客贛方言の原型を形成した。2回目は『旧唐書』にも記録されている安史の乱が引き起こした大規模な移民で、河南南部や洛陽地域の人々が湘資流域へ移住した。この時の移民の多さと規模の大きさは、荊南地域にきわめて大きな影響を与え、次第に西南方言が形成された。また鄱陽湖地域の人口を大幅に増加させたことで、客家語をさらに南方へと押し進めた。客家語は、両宋時代に起きた3回目の大規模な移民によって最終的に形成された。<sup>6</sup>

周振鶴・游汝傑（1986：27）もまた、客家の祖先は大部分が「中州（現在の河南省一帯）」から来たと述べ、客家方言の代表として知られる今日の広東省梅県方言は、宋代の汴洛方言（開封・洛陽方言）と重要な共通性が見られると説明している。

一方、河南方言そのものの形成も移民と密接な関わりがあるという。魯冰（2018：148）を再び引用する。

史料によれば、元末明初の戦乱や災害により、河南北部地域の人口は急激に減少した（中略）。明朝成立後、すぐに移民政策が打ち出され、山西の沢・潞二州で田畑を持たない人々は、彰徳、真定、臨清、帰徳、太康などの開けた土地に移住した。（中略）この大規模な移民の動きは、多くの人口をもたらしただけでなく、山西の晋語を河南中北部の土着の方言に根深く浸透させた。今日においても、

<sup>1</sup> 原文は次のとおり。【河南話】华夏語の根源，南宋之前的全国的通用語。【洛陽話】洛陽，一座享譽天下的歷史文化古城，我國歷史上建都時間最長、建都朝代最多的政治、經濟、文化中心。“洛陽話”是當時的普通話，是當時身份和地位的象徵，是當今河南話的根源。

<sup>2</sup> 中華人民共和國中央人民政府「國務院辦公廳關於加強我國非物質文化遺產保護工作的意見」（[https://www.gov.cn/gongbao/content/2005/content\\_63227.htm](https://www.gov.cn/gongbao/content/2005/content_63227.htm)）2024年1月6日最終閲覧。

<sup>3</sup> 中華人民共和國教育部「中國語言資源有聲數據庫建設工作規範（試行）」（[http://www.moe.gov.cn/s78/A19/s7067/201412/t20141210\\_181076.html](http://www.moe.gov.cn/s78/A19/s7067/201412/t20141210_181076.html)）2024年1月6日最終閲覧。

<sup>4</sup> 中華人民共和國教育部「教育部 國家語委關於啟動中國語言資源保護工程的通知」（[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A19/s7067/201506/t20150610\\_189880.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A19/s7067/201506/t20150610_189880.html)）2024年1月6日最終閲覧。

<sup>5</sup> 「洛陽郭陌我復興文化傳播有限公司」の会社設立年は2013年であるため、時期的にもちょうど合致する。

<sup>6</sup> 原文は次のとおり。中國歷史上發生過三次大規模移民運動，均與河南有關。第一次是西晉永嘉之亂引起的大規模移民，百姓從河南遷往鄱陽湖流域和皖南、蘇南地區，形成客贛方言的雛形；第二次是安史之亂引起的大規模移民，《舊唐書》中也有記載，豫南和洛陽地區的百姓遷往湘資流域，由於這次移民數量多，規模大，對荊南地區產生了巨大影響，逐漸形成了西南官話。這次移民也令鄱陽湖地區的人口大增，使客家話進一步向南推進。客家話在兩宋時期發生的第三次大規模移民運動的推動下最終形成。

河南中北部の方言の中に晋語の面影を見出すことができる。<sup>7</sup>

さらに言うならば、河南を含めた中国北方地域の方言は、北方からの非漢民族の流入により、中古中国語には存在した入声や有声音が広い地域で消滅している。したがって、洛陽方言トランプのパッケージに記されているような、「今日の河南方言のルーツ」が「南宋以前に通行していた共通語」にあるとか、古代中国語の特徴が現代の河南方言に残存しているかのような説明はミスリードではあるのだが、一方で多くの河南人たちは実際にそのように認識し、またいずれは「復興」し「再起」したいという発想が反映されている。また同時に、河南にやって来て方言グッズを購入する観光客にとっても、そうした言説は「商品価値」のあるものとなっている。

### 3. 「嘲笑の対象」となる河南方言

#### 3.1 河南方言グッズに記された方言の内容

河南方言グッズについて第二に挙げられる特徴は、「悠久の歴史」を「売り」にする一方で、河南方言を「嘲笑の対象」として扱う側面を有している点にある。例えば、「鎮搗蛋文創實驗室」が出している洛陽方言トランプは、低俗なスラングや罵倒語ばかりを収録しており、併記した例文についても「笑い狂う（例句笑疯）」と言い表している（図4）。たしかにスラングには地域性や社会的属性が反映される上に可笑しさも伴うことから、商品開発のコンセプトとしては理にかなっているが、そこから前節で挙げたような「悠久の歴史」のイメージを感じ取るのは難しい。

別の会社では、洛陽方言が表記されたマグネットが販売されており、そこで選ばれている方言語彙・フレーズには、河南方言の特徴語として知られる「得劲（be very well）」に並んで、「打他个龟孙（beat up him）」「日他嘢（what the heck）」「信求（low IQ）」といった罵倒語が含まれている<sup>8</sup>（図4）。

表記法にも特徴がある。中国語の方言グッズは、日本の方言グッズがひらがなやカタカナで表音するのと異なり、基本的には標準語の発音に基づいて漢字で方言音を音写する。さらに一部のものは意図的に奇を衒った当て字がおこなわれている。例えば、一人称「わたし」は、標準語では「我 [uo<sup>214</sup>]」とされるが、洛陽方言では「我 [uo<sup>53</sup>]」と下降調かつ母音が標準語よりも前寄りで発音されるため、標準語で [uai<sup>51</sup>] と発音する「外」が類似音として当てられている<sup>9</sup>。この表記は複数の洛陽方言トランプで確認できる。上述した「信求」も当て字であり、「信じて求めたもの」が「低い知能指数」とは、なかなか皮肉が効いている。そのほかにも、「無い」ことを意味する「没有 [mu<sup>33</sup>・iəu]」という二音節を、標準語で猫の鳴き声を表す際に用いられる「喵 [miau<sup>55</sup>]」で表記したり、「何をする？」を意味する疑問フレーズ「做啥 [tsu<sup>412-13</sup> ʂa<sup>412</sup>]」を、標準語の「捕まえる」という動詞「抓 [tʂua<sup>55</sup>]」で表記するなど、二音節が合わさって一音節で発音される「合音」の事例も見られ、聴覚的印象を写し取ったリアリティさと漢字の表意性もたらす可笑しさを演出している。

さらに、言語表現を文脈から切り離して提示することによる可笑しさもある。方言グッズに記された方言というのは、佐藤貴裕（2006: 68）の言葉を借りれば、「もとの方言から切り離して使うのだから、体系としての方言は考慮されていない」。例えば、「貳零壹貳文化芸術伝播有限公司」が出している洛陽方言トランプでは、ジョーカーの札に大きく「屌」と記され、その下部には説明部分として「厉害! Brilliant!」と訳が併記されている。「屌」はそのままの字面で理解するならば、標準語でも洛陽方言でも「大便、糞」を意味する（賀巍 1996）。その上で洛陽方言では「言葉にならないほど驚いた時の表現」<sup>10</sup>として、まさに英語の感嘆詞 Oh shit! のような使い方もされる。そうした文脈を読み飛ばすと、「大便」=「すばらしい」のような構図ができあがり、スラングにさらに輪をかけた可笑しさが発生する。



図4 洛陽方言スラングトランプとマグネット

<sup>7</sup> 原文は次のとおり。据史料记载，元末明初的战乱和灾荒使豫北地区的人口急剧减少（中略）。明朝建立后即制定了移民政策，迁山西泽潞二州民之无田者往彰德、真定、临清、归德、太康诸处闲旷之地。（中略）这次大规模移民运动不仅带来众多的人口，也使山西晋语强势吞噬河南中北部的土著方言，今天我们仍能从河南中北部的方言中找到晋语的影子。

<sup>8</sup> 括弧内に示した英訳は、もともと商品に併記されていたものである。

<sup>9</sup> 本稿における標準語音の IPA 表記は黄伯榮・廖宇東（2017: 28, 65）に準拠し、洛陽方言音は賀巍（1996）に準拠する。声調調値は1（低）から5（高）までの数字を複数組み合わせることで音の高低を示す「5度式表記」を用いた。

<sup>10</sup> 『百度百科』「河南话屌到什么意思」

(<https://zhidao.baidu.com/question/756654932005322972.html?fr=search&word=%E5%B1%99+%E6%B2%B3%E5%8D%97%E8%AF%9D%E6%98%AF%E4%BB%80%E4%B9%88%E6%84%8F%E6%80%9D>) 2024年1月6日最終閲覧。

### 3.2 「没落した河南」に対する差別的なまなざし

ではなぜ、河南方言グッズは、以上で見てきたような「笑い」に走るのか。佐藤貴裕（2006：68）は、日本のテレビ番組で「方言蔑視に近いような『笑い』が起こることがある」とした上で、その「笑い」の構造を以下のように説明している。

蔑視の笑いというのは酷で、タレントの口から方言が出た瞬間の、自分たちと同じように地についた言語・生活があることを確認できた安堵の表現ともいえる。自分には理解不能な方言が日本にあり、しかもコミュニケーション・ツールとして十全に機能していることに驚く、その反応としての笑いもあろう。

こうした「笑い」の構造は、中国の河南方言についても一部当てはまるが、ただし状況はさらに複雑である。中華人民共和国建国以降の河南は経済的後進地域であり、出稼ぎに出る労働者も多いことから、外部からは非常に強い差別的視線が向けられてきた（馬説2002）。劉榮（2003：83）によれば、「河南人は『嫌悪』『盗人』『詐欺師』の代名詞となっている」とあり、また趙彤・石田基広（2021：61）も「中国最大の検索エンジンである百度に『河南人』というキーワードを入力し検索すると、最初の河南人に関する百度百科（中国版ウィキペディア）を除けば1と2ページ目すべての項目は河南人差別に関連するもの」と指摘する。貧困や没落の象徴とされる河南への差別感情は現在の日本では想像できないほど強く、河南方言に向けられる「嘲笑」の度合いも非常に大きなものがある。馬説（2002：173）は、「ある意味、河南方言を話すことは、下層労働に従事するアウトサイダーの象徴にもなっている」と述べている。よって、前節で挙げた河南方言グッズは、制作者である河南人自身が、外部から河南に向けられる差別的なまなざしと、それに対して抱いているコンプレックスを逆手に取って作成した、強い自虐的ユーモアと見ることができよう。そう考えてみると、本来は「悠久の歴史」を誇る中華文明の発祥地であるという前章で述べた言説は、実はこうしたあり方と表裏一体を成すものであるものと理解される。

## 4. おわりに

方言グッズの生産は当然ながら経済活動の一種である。そのため、生産者は売上を出すために売れる商品を考え、興味を持ってもらえるよう工夫を凝らす必要がある。河南方言グッズは経済活動の結果として、「悠久の歴史」と「嘲笑の対象」という、一見すると相反する2つの地域イメージの中に商品価値を見出していた。これらはいずれも外から来た観光客が河南に求めるイメージであると同時に、河南人自身の視点そのものであった。そしてこうした方言グッズのあり方は、実は観光地を擁する中国の他の地域においても広く観察することができる。

井上史雄（2007：72）は、日本における方言みやげの多さに関する地域差について、「方言的特徴と観光客の多さ以外に、第3の要因として、地元の人々の方言意識、方言を大事にする気持ちを、よく反映している」と分析している。中国の河南方言グッズの事例はさらに、地域イメージと実際に方言グッズに現れる方言表記の関連性や、外部から求められる地域イメージを意識した方言グッズのあり方といった、方言グッズを研究する上での新たな視座を提供し得ると言えるだろう。

### 参考文献

- 曹志耘（2019）. 中国語保的理念及其实践, 语言文字应用, 第4期, pp.8-14
- 賀巍（1996）. 洛陽方言詞典, 江蘇教育出版社
- 日高知恵実（2023）. 中国語四川方言グッズの成立とその背景, 包聯群（編）現代中国における言語政策と言語継承, 第7巻, pp.124-145
- 日高貢一郎（1996）. 方言の有効活用, 小林隆・篠崎晃一・大西拓一郎（編）方言の現在, 明治書院, pp.362-383
- 黄伯榮・廖序东（2017）. 現代汉语 增訂六版上册, 高等教育出版社
- 井上史雄（2007）. 変わる方言 動く標準語, 筑摩書房
- 井上史雄・大橋敦夫・田中宣廣・日高貢一郎・山下暁美（2013）. 魅せる方言：地域語の底力, 三省堂
- 劉榮（2003）. 「妖魔化河南人」現象の傳播學分析, 新聞與傳播研究, 第4期, pp.83-88
- 魯冰（2018）. 河南方言與中原文化保護傳承, 中國高校社會科學, 第6期, pp.144-151
- 馬説（2002）. 河南人惹誰了, 海南出版社
- 佐藤貴裕（2006）. 方言が時折「ブーム」になるのは, 學燈社（編）國文學：解釈と教材の研究, 51（4）, pp.67-70
- 趙彤・石田基広（2021）. P2P ネット金融において河南人が本当に差別されたか?, パーソナルファイナンス研究 8（0）, pp.61-72
- 周振鶴・游汝杰（1986）. 方言與中國文化, 上海人民出版社